

図書館史研究会事務局

： 藤野研究室

本号の主な内容

- ・ 小倉親雄先生と研究姿勢 ..... 川崎 良孝
- ・ 事務局より――1991年度決算・事業報告, 1992年度予算・事業案
- ・ 編集委員会より――『図書館史研究』8号編集作業中, 9号原稿募集
- ・ 図書館史関係文献目録 ..... 寺田 光孝

小倉親雄先生と研究姿勢

川崎 良孝  
(椋山女学園大学)

昨年(1991年)の10月7日、塩見昇先生から小倉親雄先生が亡くなられたという電話をいただいた。とりあえず、河井弘志さんなどに連絡するのに忙しかった。京都大学を退官されてから、個人的にお目にかかる機会は非常に少なかったが、シェラの『パブリック・ライブラリーの成立』や、昨年(1990年)の春に刊行した『アメリカ公立図書館成立思想史』をお贈りしたとき励ましの手紙をいただいたりした。また、人づてに非常にお元気とうかがっていたので、急なことで非常に驚いた。

小倉先生には学部3年の時から大学院博士課程まで、指導教官としてお世話頂いた。博士課程の途中で退官され、その後は森耕一先生の指導をえた。僕は小倉、森という二人の大先生に直接指導をえた唯一の学生であり、学生時代は何も思わなかったが、今にして思えば贅沢で恵まれた学生であった。端的に言えば、小倉先生からは図書館学研究と研究についての姿勢、森先生からは図書館と図書館についての見方を教えていただいたと思っている。

僕の1年上に芝田正夫(関西学院大学社会学部、現在イギリスに留学中)がおり、大学院時代は小倉先生の研究室で二人で授業を受けるのが常であった。この当時、小倉先生はノーデ、シュレティンガー、ベリーといった壮大な図書館学思想史を追っておられた。非常勤の先生方としては、岩猿敏生、高橋重臣、山下栄、森耕一、井上裕雄、塩見昇などがおられた。

先生の指導の仕方は、自分で範を示すといったやり方で、いわゆる抽象的な方法論や研究法を話されることはなかった。すなわち、いつも先生が書かれた最新の論文の抜刷を教材に、重要点を説明し、質問に答え、いわば論文作成の苦労話を聞くのが常であった。ここで先生がいつも強調されていたのは以下のようなことであった。まず、歴史研究の第一として、原典に直接あたれということである。これは当然のことであるが、今にして思えば外国の二次文献を適当にまとめても「論文」になるという状況を批判しておられたように思われる。ノーデやベリー

の著作には、英語への翻訳や、英語でも複数のもがあり、そうした翻訳物や異本の話に結構時間をさいておられた。当時はぼんやりと聞いていたが、そうしたことの重要性が分かるのは後になってからであった。次に、各資料の重要度を見抜く力を養えということであった。例えば、同じアメリカ図書館協会であっても、評議会、委員会、部会、ラウンド・テーブルの決議や決定では、おのおの重みが違うといったことである。第三に、言葉へのこだわりを強調された。これは、語が内実を規定しているという認識であると同時に、図書館学という海のものと山のものともわからないものを学問にするためには、語が非常に重要になるとの認識によるものであろう。あわせて、語の重要性は語の具体的内実が変化を遂げるということ、ドイツの図書館学史や“public library”という語を例に具体的に説明して下さった。第四に、細かいことかもしれないが、孫引きは厳しく戒められた。こうしたことは技術的なことかもしれないが、先生の話は技術から常に研究姿勢の方に話が展開していった。

特に重要なこととして常に強調されたのは、自分の一貫した課題をもち、それを柱にせよということであった。逆にいえば、他の人からみて「あの人はなにをやっているのかわからん」と言われるようになるな、すなわちあれもこれもに手を出すなということであった。今一つ強調されたのは、図書館学上の重要なことに正面からぶつかり、その各論から着手せよということである。これは概論や通史を書けるのは各論を論文の形で発表しつつ、最後にそれらを総点検したのちに書けるものであるという考えによる。これは同時に、外国の著作や他人の論文などを借用して安易に概論を書くといったことへの批判でもあった。僕がシェラの『パブリック・ライブラリーの成立』を翻訳刊行したとき、先生は率直に喜んでくださった。しかし、『図書館の歴史：アメリカ編』を書いてお贈りした時は、喜んでくださると同時に、この種の本はまだ早いとコメントされたのを覚えている。

学生の身でも感じたのは、先生が教育学部の中で図書館学という講座を正当に位置づけたいと努力されていたことである。それは、教育という枠からデュイの図書館思想と実践を解明し、図書館学の教育という観点から図書館学史の研究に向かわれたという点にでている。率直に言えば、図書館学を専攻することは何か奇妙な出来事と学生の間で受け取られていたし（芝田正夫が専攻するまで少なくとも5、6年は専攻生がいなかったと思う）、何か「欠陥講座」のように学生間では思われており、僕自身そうした言葉を聞かされたこともあった。これは学生の間の話ではあるが、先生も図書館学、図書館学講座というものを、名実ともに教育学部の中で確固たるものにするべく奮闘されていたようである。これは先生が研究課題とされたものに具体的に出ているし、もう一つは紀要に現れている。端的に言って、毎年紀要に長文の論文を発表することで、図書館学というものの理解と認識の定着を試みられたといえる。

指導教官の影響というのはすごいものである。河井弘志さんが、日本ではほとんど注目されていなかった図書選択論にこだわり、語句にこだわり、各論を発表しつつ、そして長年の研究にもとづいて『アメリカにおける図書選択論の学史的的研究』に結晶化していったのは、もちろん河井さんの研究スタイルであるものの、やはり小倉先生の教えと影響によって根底で規定されているとみてまちがいない。また、塩見昇先生も、一貫して図書館における知的自由を課題としても

っておられるが、これも小倉先生がマッカーシズム下の図書館の話などをされたのがきっかけになっている。僕の場合も、学部の演習の時に、小倉先生がグリムのフィラデルフィア図書館会社に関する未刊行学位論文をもってこられたのがきっかけで、アメリカ図書館史の研究に乗り出すことになった。

僕にとって、小倉先生の言葉は学生時代にはピンとこなかった。むしろ研究を進めていくにつれて、それも比較的最近になって、先生の言葉が具体的に理解できるようになってきた。そうした意味では、日々接していた学生時代よりも、現在の方が先生の影響は大きいといえる。この点でも偉大な先生であった。

‡ ‡ ‡ ‡

事務局より(1)

■ 1991 (平成3) 年度 決算報告, 同 事業報告

1991 (平成3) 年度 決算報告

〔収入の部〕		〔支出の部〕	
1) 会費	233,000	1) ニュースレター作成発送費	80,533
2) 前年度繰越	159,851	2) 事務局費	30,728
3) 貯金利子	3,390	3) 版下作成費等	107,000
4) 京都セミナ-残金繰入	24,200	予4) 図書館史研究8号(日外)	121,000
		3) 次年度繰越	81,180
合計	420,441	合計	420,441

..... 現在高 (911221現在) .....

貯金	164,180	}	計202,180
振替口座	36,000		
現金	2,000		

\* 『図書館史研究』8号  
の日外への移替えが  
121,000円予定される

1991 (平成3) 年度 事業報告

- 1 第9回図書館史を考える(京都)セミナーの開催  
1991(平成3)年8月31日(土) ~ 9月1日(日)  
コミュニティ嵯峨野において開催 参加者55名
- 2 機関誌『図書館史研究』第7号を刊行し、第8号の編集作業中
- 3 ニュースレターの発行
  - ・ 第42号 .....1991年2月15日
  - ・ 第43号 ..... " 6月15日
  - ・ 第44号 ..... 1991年10月15日
  - ・ 第45号 ..... " 12月15日
- 4 運営委員会の開催
  - ・ 第32回運営委員会 1991年9月1日
  - ・ 第33回運営委員会 " 年10月28日
  - ・ 第34回運営委員会 " 年12月21日

1992 (平成4) 年度 予算 (案), 同 事業計画 (案)

1992 (平成4) 年度 予算 (案)

〔収入の部〕		〔支出の部〕	
1) 会費	260,000	1) ニュースレター 作成発送費	90,000
うち½は 機関誌代金		2) 事務局費	70,000
2) 前年度繰越	81,180	3) 機関誌代金等	121,000
		4) 予備費	60,180
合計		合計	
	341,180		341,180

\* 本予算案は本年通り、年会費をA会員¥2,000、B会員¥1,000 として作成した。

1992 (平成4) 年度 事業計画 (案)

1 第10回図書館史を考えるセミナー (大会) の開催

本年度の「図書館史セミナー」については、中林、宇治郷、小川徹の3氏を中心に検討していただいている。9月5、6の両日 (土、日)、東京青山のアジア会館において開催する。館界ではJLA発足百周年ということもあり、この機会に各国の図書館団体・組織の歴史を大きなテーマとしてシンポジウムを行おうということで準備が進められている。詳細については、ニュースレターの次号でご案内を致します。

2 機関誌『図書館史研究』第9号の発行

3 ニュースレターの発行

- |                  |                  |
|------------------|------------------|
| ・ 第46号 ……1992年2月 | ・ 第48号 ……1992年9月 |
| ・ 第47号 ……" 6月    | ・ 第49号 ……" 11月   |

4 運営委員会の開催

運営委員会の開催は、機関誌問題その他、必要に応じ開催する

■ 92～93年度 運営委員名簿一覧

1991 (平成3) 年12月21日の運営委員会において下記の諸氏を運営委員とする92～93年度の次期本研究会の体制ができあがりました。なお、本年4月、事務局が図書館情報大学から東京学芸大学に移転することになっています。

- |                    |                   |
|--------------------|-------------------|
| ・ 石井 敬三 (大阪府大図)    | ・ 寺田 光孝 (図書館情報大学) |
| ・ 宇治郷 毅 (国会図書館)    | ・ 天満隆之輔 (羽衣学園短大)  |
| * 奥泉 和久 (横浜女子短大図)  | ・ 常盤 繁 (東洋大学)     |
| ・ 小川 徹 (法政大学)      | ・ 中林 隆明 (国会図書館)   |
| * 小黒 浩司 (羽田工高)     | ・ 藤野 幸雄 (図書館情報大学) |
| ・ 加藤 三郎 (名古屋鶴舞中央図) | * 宮部 頼子 (恵泉女学園短大) |
| ・ 川崎 良孝 (椋山女学園大学)  | * 油井 澄子 (国立教育研究所) |
| ・ 是枝 英子 (専修大学)     |                   |
| ・ 塩田 一徳 (大東文化大学)   |                   |
- 〔\*は編集委員〕

監査

未 定

事務局

・ 山口 源治郎 (東京学芸大学)

**\* 平成4年度会費について**

従来は2月刊行のニューズレターにおいて、会費納入のご案内を差し上げていましたが、本年4月より事務局が図書館情報大学より東京学芸大学（教育学部 山口源治郎氏）に移転することになっており、事務手続き上移転後の入金の方が便宜であること、また機関誌代金込みの平成3年度会費を頂きながら『図書館史研究』第8号が出せずにいることなどの事情から、本年度会費については、ニューズレターの次号以降で処理させていただきます。

編集委員会より

■ お詫び

『図書館史研究』第8号は平成3年度内発行の予定でしたが、編集作業が少々遅れ気味です。会員の皆様にはご迷惑をおかけし、申し訳ありません。

現在、鋭意作業を進めておりますが、発行までにはもうしばらく時間を要します。ご了解ください。なお、発行され次第あらためてご案内をさしあげますが、予約会員（A会員）には出版元より直送されることになっています。

■ 原稿を募集します！

本研究会の機関誌『図書館史研究』第9号（1992. 9発行予定）の原稿を募集します。図書館史に関するものであれば、テーマはいっさい限定しません。ふるってご応募ください。

締切：6月末（投稿予定の方は4月末までに、その旨を奥泉宛ご一報ください）。

応募：原稿の送り先は下記のとおり。

奥泉 和久 宛

注意：400字で40枚程度。採否については、編集委員会で検討します。

事務局より(2)

■ ニューズレター第45号の訂正箇所

加藤三郎氏の論稿「名古屋図書館ノート(3)」 6頁7行目「工場」とあるのは「向上」の誤りです。ご訂正下さい。

■ 会員消息

退会

\* 浪江虔会員より、事務局あて『町田ペンの会・会報』57号（1991.10）、同会『会員名簿』が送られてまいりました。会報には同氏の「市民と市立図書館＝異色の歴史」と題する町田市立図書館の歴史に関する小稿が掲載されています。

また、JLA出版編集部からアレック・エリス著／古賀節子監訳『イギリス青年サービスの展開 1830-1970』が送られてきました。

1990年補遺

(図書)

- 鹿児島県立図書館史 鹿児島県立図書館編・刊 鹿児島 1990.3 245p 21cm  
 司書講習の三十年——桃山学院大学司書・司書補講習会30周年記念誌——桃山学院大学社会教育  
 センター編・刊 堺 1990.12 169p 21cm  
 女子聖学院短期大学 司書課程15年史 女子聖学院短期大学編・刊 上尾 1990.8 109p 21cm  
 寺島図書館創立六十周年記念誌 東京都墨田区立寺島図書館編・刊 1990.3 207p 26cm  
 としょかんだいすき——桶川市図書館のこれまでのあゆみ——桶川市図書館編・刊 桶川 1990.  
 10 41p 26cm (桶川市図書館叢書4)  
 富山県立図書館の50年 富山県立図書館編・刊 富山 1990.11 152p 24cm  
 われら播きし一粒の麦は——日本点字図書館創立50周年記念誌——日本点字図書館編・刊 1990.  
 11 31p 30cm

(論文)

- 酒井 悌 全国SLA創立40周年を迎えて(学校図書館 482, p9-11; 1990.12)  
 シリーズ・対談・先輩に聞く 第1回 戦前・戦後の神奈川県図書館事情 その2(戦後編)  
 (神奈川県図書館学会誌 65, p28-43; 1990.10)  
 全国SLA創立40周年記念特集 学校図書館の40年(学校図書館 482, p12-69; 1990.12)  
 ちばおさむ 本のある広場をめざして(7)——東京の図書館の四半世紀を生きて——(みんな  
 の図書館 164, p56-68; 1990.12)

1991年

(図書)

- 熱田図書館30年のあゆみ 名古屋市熱田図書館編・刊 名古屋 1991.7 116p 21cm  
 あるまちの図書館と住民——神峰町の30年—— 「ありがとう記念図書館」実行委員会編・刊  
 日立 1991.9 191,35p 18cm  
 エル＝アバディ, モスタファ 松本慎二訳 古代アレクサンドリア図書館——よみがえる知の宝  
 庫—— 中央公論社 1991.1 199p 18cm (中公新書)  
 ウィリアムズ, P. 原田勝訳 アメリカ公共図書館史 1841～1987年 勁草書房 1991.10 vii,  
 209p 22cm  
 小野泰博 図書館学の源泉——小野泰博図書館学論文集——小野泰博先生図書館学論文集刊行  
 会編・刊 つくば 1991.8 363p 22cm  
 川崎良孝 アメリカ公立図書館成立思想史 日本図書館協会 1991.5 xix,325p 22cm  
 さようなら 自動車文庫——大阪府自動車文庫39年史—— 大阪府立夕陽丘図書館編・刊 大阪  
 1991.3 図16p,107p 26cm  
 さようなら配水塔の図書館——中村図書館25年のあゆみ——名古屋市中村図書館編・刊 名古屋  
 1991.3 111p 21cm  
 澤 利政 兵庫県学校図書館史 京都 規文堂 1991.10 178p 22cm  
 10年のあゆみ——大津市立図書館開館10周年記念誌——大津市立図書館編・刊 大津 1991.11  
 63p 26cm  
 鈴木英二 興風会図書館の五十年 野田 興風会 1991.10 63p 26cm  
 大東町立図書館10年のあゆみ 開館10周年記念誌 大東町立図書館編・刊 大東町(岩手県)

- 出合い――開館10周年記念誌―― 墨田区立八広図書館 1991.3 188p 25cm  
 富山県図書館協会創立60年記念誌 富山県図書館協会編・刊 富山 1991.11 80p 26cm  
 中川図書館20年のあゆみ 名古屋市中川図書館編・刊 名古屋 1991.3 79p 21cm  
 長野県図書館協会四十年史 長野県図書館協会編・刊 長野 1991.3 128p 21cm  
 40年のあゆみ――愛知県移動図書館記録書――愛知県教育委員会文化財課編・刊 名古屋 1991.  
 3 26 cm

## (論文)

- 赤星隆子 フランスにおける図書館専門職成立への過程――Ecole des chartes が果たした役割をめぐって―― (図書館情報大学研究報告 10巻1号 p37-59; 1991.8)  
 飯野洋一 安部立郎と川越図書館 (図書館史研究 第7号, 1990, p23-41; 1991.8)  
 岩猿敏生 (述) 戦後の図書館学についての回想――竹林・小野先生の業績にふれながら―― (同志社大学図書館学年報 17, p33-45; 1991.6)  
 河井弘志 公共図書館のパイオニア――カール・プロイスカーの時代と思想―― (図書館学会年報 37(1), p1-9; 1991.3)  
 河井弘志 啓蒙主義から歴史主義へ――F.A.エーベルトの図書館学思想―― (図書館史研究 第7号, 1990, p1-21; 1991.8)  
 慶応義塾大学文学部開設百周年記念特集号 (Library and Information Science 28 special issue, p1-95; 1991.8)  
 佐々木鶴代 宇部市中部24区子供の会図書館の歴史 (図書館学 58, p1-6; 1991.3)  
 菅原 峻 『中小レポート』から『市民の図書館』へ (日本図書館協会に参加しよう1) (図書館雑誌 85(4), p199-201; 1991.4)  
 全国SLA創立40周年記念特集 学校図書館の40年【続】 (学校図書館 483, p52-55, 63-69; 1991.1)  
 高鷲忠美、岩下康夫 全米収書目録計画(NPAC): 誕生から終焉、そして再生へ (図書館学会年報 37(2), p78-87; 1991.6)  
 岸 行著 竹内愁訳 人民中国大学図書館事業発展史概説 (図書館界 43(4), p162-168; 1991.11)  
 ちばおさむ 本のある広場をめざして (8)-(12)――東京の図書館の四半世紀を生きて―― (みんなの図書館 165, 167, 169, 171, 173; 1991.2, 4, 6, 8 & 10)  
 張樹華、項弋平 井上宏二訳 新中国建国40年におたる図書館の読者サービスにおける実践と理論の進展 (図書館界 42(2), p344-354; 1991.3)  
 寺田光孝 フランス公共図書館の実勢――19世紀末から20世紀の初頭にかけて―― (日仏図書館情報研究 17, p37-64; 1991.6)  
 永末十四雄 市立図書館の主体性形成(1)-(2)――戦後期公共図書館における高知市民図書館の意義―― (図書館界 42(2)-43(1); 1991.3-5)  
 中村克明 「1954年自由宣言」における知る自由の歴史的意義について (短期大学図書館研究 11, p58-64; 1991.4)  
 二宮三郎 往時渺茫依然 (国立国会図書館月報 366, p16-19; 1991.9)  
 広庭基介 幻の市民公開計画――明治30年の京都帝大図書館―― (大学図書館研究 37, p34-43; 1991.3)  
 広庭基介 京都帝国大学附属図書館第二代館長石川一の肖像 (大学の図書館 215, p170-176; 1991.9)  
 松野高德 もうひとつの図書館史: アジアの植民地と日本人の図書館活動 (館灯 29, p35-38;

1991.3)

- 南 論造 図書館遍歴60年の感懐ープロローグー (大学の図書館 214, p146; 1991.8)  
宮部頼子 ユネスコの図書館発展プログラムと識字活動 (図書館界 42(5), p280-287; 1991.1)  
もり・きよし (述) NDCと私ーNDCの経緯を中心に図書館人として50年の回想ー (同志社大  
学図書館学年報 17, p2-32; 1991.6)  
山崎賢二 敗戦直後の一旧制高等学校における図書廃棄 (図書館雑誌 85(1), p37-39; 1991.1)

(追悼記事)

- 秋田征矢雄 図書館人 金光鑑太郎 (図書館雑誌 85(5), p274; 1991.5)  
池田信男 <訃報> 学校図書館の父 尾原淳夫先生 (図書館界 43(3), p158; 1991.9)  
石塚栄二 <訃報> 藤田さんのご逝去を悼む (図書館界 43(4), p194-195; 1991.11)  
金中利和 「日本十進分類法」の創案者ーもり・きよしさんー (国立国会図書館月報 358,  
p16; 1991.1)  
金中利和 R. B. ダウンス博士の足跡 (国立国会図書館月報 362, p23; 1991.5)  
黒崎義博 学究の徒・山縣二雄先生を偲ぶ (図書館雑誌 85(12), p816; 1991.12)  
佐藤政孝 追悼 杉捷夫先生 (図書館雑誌 85(3), p151-152; 1991.3)  
鈴木武次 回想の廿日出逸暁さん (図書館雑誌 85(9), p637; 1991.9)  
追悼特集 東京の図書館史における杉捷夫先生の果たした役割 (みんなの図書館 166, p48-62;  
1991.3)  
特集: 杉捷夫会長追悼と日仏図書館学会の20年 (日仏図書館情報研究 17, p1-36; 1991.6)  
吉井善三郎 尾原淳夫先生と大阪の学校図書館 (図書館雑誌 85(12), p812; 1991.12)  
吉田正夫 鳥居美和子さんを偲んで (図書館雑誌 85(12), p809; 1991.12)  
ロバート・B・ダウンス氏の生涯を惜しむ (びぶろす 42(5), p22; 1991.5)

(書評、旅行記・印象記は掲載せず)

完全なものではありませんので、お気付きのものがあれば事務局へお知らせ下さい。

(作成 寺田光孝)